

<今回>298回目 2021年7月26(月)15時~18時 第1会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p331、第四章 隣国資料にみる九州王朝 より

<前回>297回目(21-7-5)出席者 8名

資料(21-07-05-1)前回のまとめ(清水)

(21-07-05-2)隋書にみる倭国の領域について(大墨)

A 報告 読書会に参加していた方の消息を交換した。相川さんは3年前から体調が悪く欠席したと問い合わせに対して返事があった。3回目のがんの転移で、戦っているとのこと。新しい会場に行って皆さんのお顔をみたい。藤沢の辻氏はノーベル化学賞の候補になられた方で、山田宗睦先生と京都大学同期で在学中は学部が違い面識はなかったが、朝日カルチャーセンターに通って、師事し、またこの読書会当初にも参加してくれた方。

B資料 2)隋書の夷蛮伝の領域表示を整理して、倭国の3月行、5月行をどう理解するか、示された。

#### C読書 倭国の由来

1)「日出る処」直接の統治領域たる九州(島)の東に直接する島々、本州のような九州よりずっと巨大な東方直接の島の存在を知りながら、その「西辺」に位置する九州を「日出処」と自称し得ようか、もはやわが地の東は洋々たる大海のみという認識に立って初めて「日出処」と言いうる。

2) 天子の都は九州の筑紫に位置しても、その外廷(概念のひろがり)はいわば日本列島の全体に及んでいなければならない。倭王は近畿大和を中心とする天皇家の領域を内に含んで「日出処」の天子と誇らかに宣言した。3月行、5月行を横長の領域として大きくとらえている。

3) 倭国の由来 倭(たい)と自称した。音は邪靡堆、魏志の所謂邪馬臺なるもの也。後漢書による修正(三國史は邪馬壹国)。皆ヤマという。五世紀以来タイ国という名称が用いられているのが知られる。?大倭を一字で表記する中国の一字国名に倣ったもの。

4) 二人の天子 倭の五王で知られる倭王武は中国南朝に代々臣事した。多利思北孤はそれに対して、対等であることを主張して、天子と号した。中国正統の南朝陳が滅んで北朝隋に統一されたときに東夷の倭王が自ら倭と称して日出処の天子と名乗った。(自ら「倭」と自称したのは卑下したとは考えられない。「大倭」と名乗ってきたのに対して倭という文字と音を与えた。)

5) 「菩薩天子」というのは多元的言葉で天子を唯一の存在とみなさない思想を案出した。煬帝に海西の菩薩天子と呼び掛けている。仏法による二人の菩薩天子という概念を案出した。政治思想上、仏教思想上刮目すべき問題をはらんでいる。

席上煬帝の「帝」はなぜ「だい」と読むのか、質問が出た。山本さんは呉音であると調べてくれた。「てい」は漢音である。中国歴代史上では人民を酷使した悪い帝である。近代共産党政府は大運河など後世に役立つことをした、よい面があると評価を一変させた。

次回日程 2021-8-13日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—8-23日(金)15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—9-10日(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室